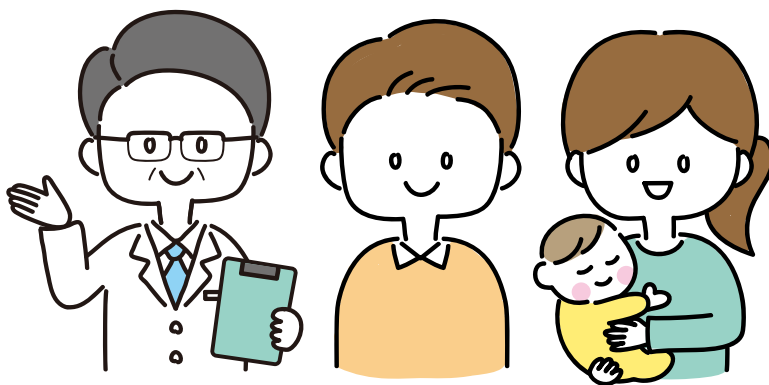




急な病気や怪我のときの受診の目安

こども 救急箱

— 小児救急ガイドブック —



対象年齢

生後 1 か月から 6 歳くらいまで



さいたま市

+ はじめに

このガイドブックは、お子さんの急な病気や怪我をしたときの対応方法をまとめたもので、ご家庭でできる応急手当の方法や電話相談窓口、休日や夜間の診療案内についても掲載しています。

お子さんは成長の過程で、いつでも病気になったり怪我をしたりする可能性があり、受診をするべきか迷うこともあると思います。

お子さんの「いざ」という時に落ち着いて適切な対応ができるように、日頃からお子さんの病気や怪我についての知識を持ち、備えておくことが大切です。

また、できるだけ医療機関のスタッフや設備が整っている昼間の診療時間に受診することを心がけるとともに、日頃からかかりつけ医に相談ができる環境を整えておくことも大切です。

さいたま市では、このガイドブックを通じて安心して受診ができる救急医療の提供と育児の応援をいたします。

目次

+ 子どもの様子がいつもと違うとき 編

- 元気がない／ぐったりしている／機嫌が悪い／いつまでも寝ている 1
- ミルクや水分をとるのを嫌がる／ご飯を食べない／赤ちゃんが泣き止まない 2

+ こんな時どうしたらいい？ 編

- 発熱（38度以上） 3
- 嘔吐（吐いた） 5
- 腹痛・便秘 7
- 誤飲（異物を飲み込んだ） 9
- 熱中症 11
- 咳（せき） 4
- 下痢 6
- けいれん・ふるえ 8
- やけど 10

+ ご家庭でできる応急手当・感染症、事故予防の方法 編

- 感染症予防の方法 12
- 子どもの事故の防ぎ方 13
- のどに物が詰まったときの応急手当 14
- AED（自動体外式除細動器）を使用した心肺蘇生法 15

+ 資料 編

- さいたま市の小児救急医療体制／上手なお医者さんのかかり方 16
- 市内の休日・夜間急患診療所／休日・夜間急患診療所を受診するときは／在宅当番医制とは 17

+ いざというときの連絡先 編

- さいたま市子ども急患電話相談／埼玉県救急電話相談／
埼玉県A I 救急相談／全国版救急受診アプリ（愛称「Q助」）／
医療情報ネット ナビイ（厚生労働省） 18

＋ 子どもの様子がいつもと違うとき 編

元気がない ぐったりしている



機嫌が悪い いつまでも寝ている



ミルクや水分をとるのを嫌がる ご飯を食べない

熱はないかな

発熱 → P3

水分はとれているかな

熱中症 → P11

咳は出ていないかな

咳 → P4

下痢はしていないかな

下痢 → P6

お腹を痛がっていないかな

腹痛 → P7

おしっこは出ているかな

発熱 → P3

嘔吐 → P5

下痢 → P6

便は出ているかな

便秘 → P7



赤ちゃんが泣き止まない

赤ちゃんはいくらなだめても泣き続けることが多く、1日に5時間以上泣くこともあります。下の項目を試してみて、それでも泣き続けて、パパママがイライラするようなら、赤ちゃんを安全な場所に寝かせ、その場を数分離れて気分転換をして、また対応しましょう。

パパママのスキンシップを求めているかな

→ 抱っこ・お散歩をしてみよう

眠くないかな

お腹がすいていないかな

室温が高い・厚着をしているなど暑くないかな

おむつが汚れていないかな
便は出ているかな

こまめな水分補給はできているかな

下痢 → P6

便秘 → P7



▶ 発熱（38度以上）



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談

P18

電話 048-825-5252

FAX 048-825-5254



☑ チェック項目

- ☐ 生後3ヵ月未満
- ☐ 元気がなく、ぐったりしている
- ☐ おしっこが少ない
- ☐ 水分をとるのを嫌がる
- ☐ 一日中ウトウトしている
- ☐ 泣いたり笑ったりせず、無表情で活気がない

ひとつ以上あてはまる場合は、
すぐに医療機関を受診してください

POINT

伝えるポイント

■ 本人の様子・いつから・体温

＋ ご家庭でできる対処方法

- 水分(乳幼児用イオン水など)を少量ずつ何回も与えましょう。
- 嫌がらなければ、太い血管が通るわきの下や足の付け根を冷やしてみましょう。(熱が下がりやすくなります)
- 汗をかいていたら、汗を拭いて着替えをさせましょう。
- 熱があっても元気そうなら、解熱剤を使うのは控えましょう。



▶ 咳（せき）



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談

P18

電話 **048-825-5252**

FAX **048-825-5254**



☑ チェック項目

- ☐ 元気がなく、ぐったりしている
- ☐ 呼吸がはやく、苦しそう
- ☐ くちびるの色が悪い（青白い・青紫色）
- ☐ ゼーゼー、ヒューヒューいう
- ☐ 肩で呼吸をしている
- ☐ 呼吸が苦しくて会話ができない

ひとつ以上あてはまる場合は、
すぐに医療機関を受診してください

POINT

伝えるポイント

- いつから・既往歴（ぜんそくなど）
- 急に咳こんだとしたら、その時に何をしていたか（誤飲の疑い）

+ ご家庭でできる対処方法

- 乾燥しているときは、部屋を加湿しましょう。気道がうるおい、気道への刺激が和らぎます。
- 咳が激しく食事がとれない場合は、のどに刺激の少ない水分を少しずつ飲ませましょう。タンが切れやすくなります。



▶ 嘔吐（吐いた）



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談

P18

電話 **048-825-5252**

FAX **048-825-5254**



☑ チェック項目

- ☐ 生後3か月未満で、母乳・ミルクのたびに勢いよく嘔吐を繰り返す
- ☐ おしっこが少なく、くちびるや口の中が乾いている
- ☐ 一日中ウトウトしている
- ☐ 泣いたり笑ったりせず、無表情で活気がない
- ☐ 血（赤色・褐色）や胆汁（黄色または緑色）を吐いた

ひとつ以上あてはまる場合は、
すぐに医療機関を受診してください

POINT 伝えるポイント

- いつから「何回」吐いたか
- 吐いた物の特徴（色や形状など）
- おむつを「何回」替えたか

+ ご家庭でできる対処方法

- 嘔吐から30分～60分程度経ったら、脱水症状にならないようにするために水分（乳幼児用イオン水など）を小さじ1杯程度から始めて増やしながら、少量ずつ何度も与えましょう。
- 寝ているときは、吐いた物で気道を塞いで窒息しないように体や頭を横に向けるようにしましょう。



▶ 下痢



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談

P18

電話 **048-825-5252**

FAX **048-825-5254**



☑ チェック項目

- ☐ 元気がなく、ぐったりしている
- ☐ 顔色、皮膚の色が悪い
- ☐ おしっこが少なく、くちびるや口の中が乾いている
- ☐ 目がくぼんでいる
- ☐ 嘔吐がある
- ☐ 便に血が混ざっている
- ☐ 38度以上の熱がある
- ☐ おなかを痛がる

ひとつ以上あてはまる場合は、
すぐに医療機関を受診してください

POINT

伝えるポイント

- 便は「いつから」「何回」「どれくらいの量」「どんな色」か、水分はどの位とれているか、家族で他に下痢をしている人はいるか

+ ご家庭でできる対処方法

- 下痢の後、脱水を防ぐために水分(乳幼児用イオン水など)を小さじ1杯程度から増やしながら、少量ずつ何度も与えましょう。
- 家庭内の感染を防ぐために、排泄物の処理をした後は、手をよく洗いましょう。



▶ 腹痛・便秘



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談 P18

電話 **048-825-5252**

FAX **048-825-5254**



☑ チェック項目

- ☐ 元気がなく、ぐったりしている
- ☐ 呼吸が荒く、苦しそう
- ☐ 顔色、皮膚の色が悪い
- ☐ 便に血が混ざっている
- ☐ 繰り返し嘔吐する
- ☐ おなかを激しく痛がる
- ☐ おなかを触ると痛がる

ひとつ以上あてはまる場合は、
すぐに医療機関を受診してください

POINT 伝えるポイント

- おなかの痛みはどの位続き、痛くなったり治まったりの波はあるか
- 便はどの位の期間出ていないのか
- 便は何回、どの位の量が出たのか
便の特徴（白っぽい、黒っぽい、赤っぽい等）

+ ご家庭でできる対処方法

- トイレに行って、排便させてみましょう(浣腸してあげるのもよいでしょう)。
- 腹痛が軽い場合は、無理に食べさせないで、水分を少しずつ飲ませ、様子を見ましょう。



▶ けいれん・ふるえ



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談

P18

電話 048-825-5252

FAX 048-825-5254



☑ チェック項目

- ☐ けいれんが止まっても意識がはっきりしない
(目が合わない、お父さん・お母さんが分からない)
- ☐ くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い
- ☐ 何度も繰り返しけいれんが起きる
- ☐ けいれんが5分以上続く

119番通報
ただちに
救急車を呼ぶ

☑ チェック項目 (受診や相談時に伝える)

- ☐ 体温が38度以下である
- ☐ 最近頭を激しくぶつけたことがある
- ☐ 生まれて初めてのけいれんである
- ☐ 嘔吐・おもらしをともなう

ひとつ以上
あてはまる場合は、
**すぐに医療機関を
受診してください**

POINT 伝えるポイント

- 体温は何度か、けいれんは「いつから」「どのような」「どの位」続いたか、右半身、左半身の左右差があったか
- できればお子さんの動画を撮影して医師に見せましょう

+ ご家庭でできる対処方法

- 吐いた物で気道を塞いで窒息しないように顔を横向けにして、苦しくないように衣類をゆるめましょう。
- 体をゆすったり、たたいたりするなど刺激を与えるとけいれんが長引く恐れがあります。
- 怪我や窒息を防ぐため、口の中に指、物を入れてはいけません。



▶ 誤飲（異物を飲み込んだ）



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談

P18

電話 048-825-5252

FAX 048-825-5254



☑ チェック項目

- ☐ 意識がない
- ☐ けいれんを起こしている

119番通報

ただちに救急車を呼ぶ

☑ 誤飲の種類（受診や相談時に伝える）

- ☐ 医薬品 ☐ 画鋲 ☐ 磁石 ☐ たばこ ☐ 灯油
- ☐ 漂白剤 ☐ ベンジン ☐ ボタン電池
- ☐ マニキュア・除光液
- ☐ 洗浄剤（トイレ・排水パイプ）
- ☐ 塩素系漂白剤 ☐ 衣類用防虫剤（しょうのう・ナフタリン）
- ☐ 衣類用防虫剤やトイレの芳香剤（パラジクロルベンゼン）
- ☐ ホウ酸団子（ゴキブリ退治用の毒餌等） ☐ 液体蚊取り

ひとつ以上
あてはまる場合は、
**すぐに医療機関を
受診してください**

+ ご家庭でできる対処方法

- 顔色、意識、呼吸、脈拍を観察しましょう。
- 原則、吐かせる必要はありません。
- 牛乳、水などを無理に飲ませる必要はありません。



(公財) 日本中毒情報センター

情報提供料は無料、通話料は相談者負担



大阪中毒110番 ▶ ☎072-727-2499 365日 24時間対応

つくば中毒110番 ▶ ☎029-852-9999 365日 24時間対応

たばこ誤飲事故専用電話（自動音声応答による情報提供）▶ ☎072-726-9922 365日 24時間対応

▶ やけど



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談

P18

電話 **048-825-5252**

FAX **048-825-5254**



☑ チェック項目

- ☐ 皮膚が黒く焦げていたり白くなっている
- ☐ やけどの範囲が広い

119番通報

ただちに救急車を呼ぶ

☑ チェック項目（受診や相談時に伝える）

- ☐ 水ぶくれ（水疱）ができている
- ☐ やけどした範囲が、その子どもの手のひらの大きさである
- ☐ 顔、手のひら、関節部分のやけどである

ひとつ以上あてはまる場合は、
**すぐに医療機関を
受診してください**

POINT

伝えるポイント

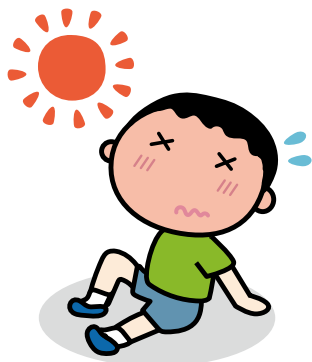
- どういう状況でやけどをしたのか
- やけどをした熱源は何か
- どのくらい熱源にあたっていたのか

+ ご家庭でできる対処方法

- やけどをしたら、とにかく流水で10分以上、痛みがなくなるまで冷やしましょう。皮膚がはがれてしまう恐れがあるため服を着ていても、無理に脱がさず服の上からそのまま冷やしましょう。
- やけどをしたところは細菌に感染しやすくなっているので細菌の侵入予防のために触らないようにしましょう。
- 水ぶくれ（水疱）ができた場合、破れないように保護しましょう。（破れると細菌感染する可能性があります）



▶ 熱中症



受診に迷ったら…

さいたま市子ども急患電話相談 P18

電話 **048-825-5252**

FAX **048-825-5254**



☑ チェック項目

- ☐ 呼びかけに対する返事がおかしい
- ☐ 意識がない

119番通報
ただちに救急車を呼ぶ

☑ チェック項目（受診や相談時に伝える）

- ☐ めまい
- ☐ 筋肉痛、筋肉の硬直
- ☐ 大量の発汗
- ☐ 頭痛、気分の不快、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感
- ☐ けいれん、手足の運動障害
- ☐ 高体温

ひとつ以上
あてはまる場合は、
**すぐに医療機関を
受診してください**

⚠ 子どもの熱中症の注意点

ベビーカーでは、強い日差しや紫外線を避けようとして日よけで覆うと、ベビーカー内の風通しが悪くなり、熱や湿気がこもって熱中症になる危険度が高まります。小型の扇風機をベビーカーに取り付けて風通しをよくしたり、保冷剤をタオルにくるんでベビーカーに入れるなど、涼しく過ごせる工夫をしましょう。

+ ご家庭でできる対処方法

- 脱水を予防するため、こまめに経口補水液やスポーツドリンクなどの水分を摂取しましょう。
- 上がった体温を下げるため、涼しい場所に避難しましょう。
- 服を脱がせ、体を冷やしましょう。



＋ ご家庭でできる応急手当・感染症、 事故予防の方法 編

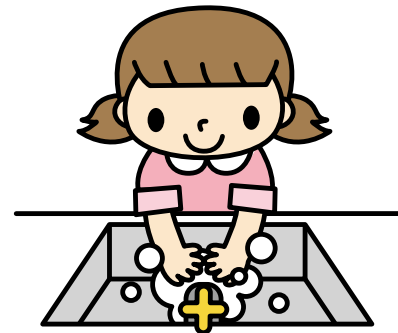
感染症予防の方法

▶ 手洗い

帰宅時や、くしゃみをしたり、鼻をかんだ後、食事の前後などには手をよく洗いましょう。

流水でよく手をぬらした後、石けんをつけて泡立て、次の順番で数秒ずつ、全体で 30 秒くらいの時間をかけて洗いましょう。

- ① 手のひらをあわせて、よくこする
- ▼
- ② 手の甲を伸ばすようにこする
- ▼
- ③ 指先やつめの間を念入りにこする
- ▼
- ④ 指の間も十分に洗う
- ▼
- ⑤ 親指とその付け根を洗う
- ▼
- ⑥ 手首を軽く握りながら洗う



▶ 人ごみを避ける

子どもは、大人と比べて抵抗力が弱いため、感染が広がっている場所や人が混みあっている場所を避けることも予防になります。

▶ 体力を落とさない

- 1 日 3 食、栄養バランスの取れた食事を摂りましょう。
- 十分な睡眠で、しっかりと休養しましょう。
- 体力や抵抗力を高めるために
日頃から規則正しい生活を心がけましょう。



子どもの事故の防ぎ方

子どもの事故は年齢によって特徴がありますが、子どもの身の回りの環境を整備して、対策を立てることで、防げる事故があります。子どもの目線で見まわして、危険なものがないか常に確認しましょう。

[おきやすい事故と予防のポイント]

新生児～6か月

■ 窒息

敷布団はかためのものを選びましょう。
タオルや掛布団で赤ちゃんの顔を覆わないように気を付けましょう。

■ 転落

ベッドの柵は必ず上げておきましょう。

7か月～11か月

■ 転倒・転落（ベビーカー・階段からの転落）

ハイハイやつかまり立ち、伝い歩きができるようになると行動範囲が一気に広がります。子どもから目を離さないように気を付けましょう。

■ やけど・誤飲・中毒

子どもの手の届くところに誤飲ややけどにつながるようなものは置かないようにしましょう。

1歳～6歳

■ 溺水（おぼれる）

浅い水でも溺れます。浴槽の水は全て抜きましょう。

■ 転落

ベランダに踏み台になるような物を置かないようにしましょう。

■ 誤飲・中毒・交通事故

外出時、手をつなぐなど、子どもから目を離さないようにしましょう。

こども家庭庁ホームページ 「こどもの不慮の事故を防ぐために」

子どもの事故防止に関する注意ポイントなどの情報が掲載されています。
子どもの発育に合わせて定期的に確認してみましょう。

▶ ホームページアドレス(URL) <https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety-actions>



のどに物が詰まったときの応急手当

窒息の応急処置

のどに物が詰まって、声が出せない

※せき込んだり、
声を出せるときは
行いません。

119 番通報

意識はありますか？

ない

心肺蘇生

ある

1 歳未満の乳児



胸部突き上げ法

片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支えます。心肺蘇生法の胸部圧迫と同じやりかたで圧迫しましょう。

数回ずつ
交互に
行いましょう



背部叩打法

片手で体を支え、手の平であごをしっかり支えます。もう一方の手の平の付け根で背中をしっかり叩きましょう。

意識がなければ

1 歳以上の幼児

腹部突き上げ法（ハイムリック法）

背後から両腕を回し、子どものみぞおちの下で片方の手を握り拳にします。その手で腹部を上方へ圧迫しましょう。



異物が取れるか、救急隊と交替するまで続けましょう

AED（自動体外式除細動器）を使用した心肺蘇生法

心肺蘇生法

※心肺蘇生法はなるべく固い床の上で行いましょう。

様子がおかしい

①
声をかけながら
足の裏を叩く

幼児は成人と同じで、両肩をやさしくたたく

②

119番とAEDを依頼

あなた一人の時は、まず119番しましょう。

1

反応がない

2

3

③
胸とおなかを見る

ちゃんと息をしていない

必ず胸骨圧迫

できれば人工呼吸



両乳首の間を胸の約 1/3 の深さまで強く押し込み、1 分間に 100 回以上のペースで

30回

2回



あごを上げ、頭を後ろに曲げて、顔は少しのけぞるように

到着次第AED使用。
電源を入れたら音声メッセージに従いましょう。

泣き出するか、救急隊と交替するまで続けましょう

さいたま市の小児救急医療体制

さいたま市内の小児科医療機関は、適切な救急医療を提供するため、役割分担を行っています。「必要なとき」に「必要なお子さん」に対して、「適切な医療」が提供できるように、ご理解とご協力をお願いします。

お子さんの状態の変化に気がいたら、診療時間内に**かかりつけ医**への受診を心がけましょう。

▶ 休日や夜間で、お子さんの体調が心配なとき

まずは

さいたま市子ども急患電話相談

電話 **048-825-5252** FAX **048-825-5254**

家庭での処置や、受診の要否などについて、発熱・嘔吐・下痢・誤飲・発疹など、子どもの急病で困ったときに、看護師からアドバイスを受けることができます。

【月～金曜日】17時～翌9時

【土・日曜日、祝・休日、年末年始（12月29日から1月3日）】9時～翌9時

初期救急（軽症）

かぜや下痢など、一般的な病気で診察を受けたい場合に対応します。診察の結果によっては、二次・三次救急医療機関へ紹介することもあります。休日・夜間については、各休日夜間急患診療所へ（17ページに詳しく掲載しています）。深夜（22時～翌6時）については、さいたま市大宮休日夜間急患センター（TEL.048-667-8180）へ。

※休日夜間急患診療所は、休日や夜間に緊急で治療が必要な場合に受診してください。

二次救急（中等症・重症）

初期救急の診察で検査が必要と判断された場合や、入院が必要と診断され紹介された場合、さらに救急車で搬送された場合などに対応します。市内では、市立病院やさいたま市民医療センター、自治医科大学附属さいたま医療センターが担当します。

三次救急（最重症）

初期・二次救急医療では対処ができない場合、医師の紹介により受診できます。市内では、県立小児医療センターだけが担当し、直接受診はできません。



二次・三次救急医療機関は、原則として患者さんが直接受診することはできません。

上手なお医者さんのかかり方

① かかりつけ医をもちましょう

- 「かかりつけ医」とは気軽に健康に関する相談にのってくれるお医者さんのことです。必要なときには、専門の病院などを紹介してくれます。
- かかりつけ医は、普段のお子さんの様子を分かっている、その子の病気や薬のことだけでなく、予防接種や育児の不安や疑問についても相談にのってくれます。
- 相談しやすい、自宅に近いなどの通いやすいお医者さんのかかりつけ医を選びましょう。予防接種や健康診査などの機会がかかりつけ医を見つけるきっかけとなります。

② できるだけ診療時間内に受診しましょう

- 昼間、お子さんの様子がおかしいと思ったら、早めにかかりつけ医に診てもらいましょう。
- 休日や夜間の救急病院は、重症の患者さんの対応を優先しています。夜間の急な発熱や嘔吐など、緊急を要するとき以外は診療時間内の受診を心がけましょう。

③ 診察を受けるときに持って行くものをチェックしましょう

- ☐ 母子健康手帳 ☐ マイナンバーカードまたは健康保険証
- ☐ 診察券 ☐ 医療券 ☐ 子育て支援医療費受給資格証
- ☐ 子どもの状態がわかるもの（体温・症状を書いたメモ）
- ☐ お薬手帳（飲んでいる薬や薬の名前が分かるもの）
- ☐ 着替え ☐ タオル ☐ 紙おむつ ☐ ビニール袋
- ☐ ティッシュペーパー ☐ おもちゃ



④ 休日・夜間に受診するときは

- 地域の休日・夜間急患診療所や在宅当番医、救急病院などをあらかじめ確認しておきましょう。
- 救急病院のお医者さんは、日ごろからそのお子さんの様子を診ているかかりつけ医とは違います。すぐ入院して治療する必要があるか、翌日まで様子をみてもいいかなど、一時的な判断をするのが役目です。翌日まで様子をみてもいいと判断された場合は、応急処置を受けて、改めてかかりつけ医を受診しましょう。

市内の休日・夜間急患診療所

(令和7年1月31日時点)

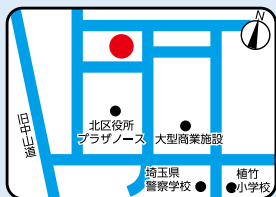


臨時休診や受付時間の変更がある場合がございますので、受診する前に電話で確認してください。

さいたま市大宮休日夜間急患センター

北区宮原町 1-851 JCHO さいたま北部医療センター内
TEL. 667-8180 FAX. 665-9000

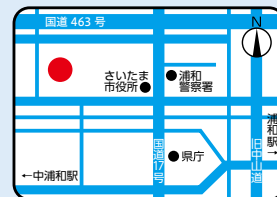
- 休日【日曜日、祝・休日、12/30～1/3】
 - ・内科 9時～11時30分、13時～16時30分、19時～21時30分
 - ・小児科 9時～11時30分、13時～16時30分、19時～翌日6時
- 休日【日曜日】
 - ・眼科 9時～11時30分
 - ・耳鼻咽喉科 9時～11時30分、14時～16時30分
- 休日【祝・休日】
 - ・耳鼻咽喉科 14時～16時30分
- 平日夜間【月～土曜日】
 - ・小児科 19時～翌日6時
- 土曜日夜間
 - ・内科 19時～21時30分



さいたま市浦和休日急患診療所

浦和区常盤 6-4-18 浦和区保健センター 2 階
TEL. 833-0119 FAX. 827-1035

- 休日【日曜日、祝・休日、12/29～1/3】
 - ・内科・小児科 9時～11時30分、13時～16時30分
19時～21時30分
- 平日夜間【月～金曜日】
 - ・小児科 19時30分～22時
- 土曜日夜間
 - ・内科・小児科 19時～21時30分



さいたま市与野休日急患診療所

中央区本町東 4-4-3
TEL. 706-1212 FAX. 706-1212

- 休日【日曜日、祝・休日、12/30～1/3】
 - ・内科・小児科 8時45分～11時45分、13時～15時、18時45分～21時15分
- 土曜日夜間
 - ・内科・小児科 18時45分～21時15分



与野休日急患診療所を一時的に移転します。移転の詳細及び診療日時等についてはホームページをご確認ください。

岩槻休日夜間急患診療所

岩槻区府内 1-8-1 府内別館
TEL. 798-2221 FAX. 798-2223

- 休日【日曜日、祝・休日、12/31～1/3】
 - ・内科・小児科 19時～21時30分



休日・夜間急患診療所を受診するときは

- 救急医療を行っていますので、かかりつけ医などが診療時間内に行う治療と同様の診療ができない場合があります。
- 比較的症状の重いお子さんの診療にあたっている場合など、待ち時間が長くなったり、診療の順番が前後したりすることがあります。
- 診察の結果、重症と判断した場合には、他の医療機関での受診をお願いすることがあります。
- お薬は、かかりつけ医が診察するまでの必要最低限の量（基本的には1日分）を処方します。

在宅当番医制とは

- 日曜日や祝日、年末年始の昼間に、市内の医療機関が当番制で診療を行うものです。
- 在宅当番医については、さいたま市ホームページや、当日の東京・埼玉新聞に掲載されていますので、ご覧下さい。他の救急対応等により、長時間お待ちいただく場合もございますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

▶ ホームページアドレス(URL) <https://www.city.saitama.lg.jp/002/001/017/006/p040798.html>



+ いざというときの連絡先 編

(令和7年1月31日時点)

さいたま市子ども急患電話相談

家庭での処置や、受診の要否などについて、発熱・嘔吐・下痢・誤飲・発疹など、子どもの急病で困ったときに、看護師からアドバイスを受けることができます。

■ 電 話 **048-825-5252**

■ F A X **048-825-5254**

■ 相談時間 月～金…17時～翌9時

土・日曜日、祝・休日、年末年始（12月29日から1月3日）…9時～翌9時

■ 対 象 者 さいたま市に居住、又は滞在する子ども及びその保護者並びに家族等

※電話での相談が困難な場合、FAXでの相談もお受けしています。

市ホームページより送信票をダウンロードできますので、ご利用ください。

▶ ホームページアドレス (URL) <https://www.city.saitama.lg.jp/007/002/014/001/p007009.html>



埼玉県救急電話相談

急な病気やけがの際に、症状に応じた対処方法や医療機関の受診の必要性について、看護師が電話で相談に応じます。医療機関案内もご利用いただけます。

■ 電 話 **#7119** 又は **048-824-4199** [都県境の地域でダイヤル回線・IP電話・光電話・携帯電話をご利用の場合]

※医療機関案内は歯科、口腔外科、精神科は除きます

■ 相談時間 **24時間対応**

※案内された医療機関を受診する前に、必ずその医療機関に電話で確認してください

▶ ホームページアドレス (URL) <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0703/20151214.html>



埼玉県 AI 救急相談

▶ ホームページアドレス (URL)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0703/aikyukyu.html>



全国版救急受診アプリ(愛称「Q助」)

▶ ホームページアドレス (URL)

<https://www.fdma.go.jp/mission/enrichment/appropriate/appropriate003.html>



医療情報ネット ナビイ (厚生労働省)

かかりつけ医がいない場合や、かかりつけ医が休診の場合は、医療機関検索サイトで調べることができます。ナビイでは全国にある医療機関や薬局を場所や診療科目・時間などのさまざまな条件から、検索する事ができます。

▶ ホームページアドレス (URL)

<https://www.iryuu.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2300/initialize>

